

2年生 高校講座 外務省 石田さんの講演

7月9日（金）、国際教養科2年生を対象に、外務省 石田 達也さん（軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課兼通常兵器室）に講演をしていただきました。普段なかなか聞けない、外務省の詳しい仕事内容や、石田さんがなぜ外務省に入ろうと思ったかなど知ることができました。ここでは、話を聞いた生徒の感想の一部を紹介します！

・今まで外務省について知る機会があまりなかったですが、今回の講座で、海外に赴任して通訳や災害時に日本人が巻き込まれていないか調査するなど、私たちの生活に大きく関わっていることが分かりました。



・外交官と聞くとおもうのは大使館くらいでしたが、今回の講座を通じて大使館以外にも通訳だったり国家間の会議に参加したり、一言で外交官といってもその中でたくさんの仕事があることが分かりました。

・私が予想していた仕事内容と全然違ってとても驚きました。特に驚いたことは、日本での活動だけでなく、海外の会議にも出席したり、日本も外務省として仕事の拠点が海外にあることです。また、実際の国連の会議の様子や石田さんが撮影した現地の写真を見せていただき、外務省についてもっと知りたいと思いました。

外交官という仕事を堅苦しくなく、わかりやすく説明してくださいました！

1年生 1日異文化体験

8月4日（水）、国際教養科1年生が、国際協力体験談やイスラム教徒の生活の講話、ヤングムスリムの方々との交流などをオンラインで行いました！

国際協力体験談を聞いて…

①協力隊が活動する理由について考えるきっかけになりました。将来は日本で仕事したいと思っていたけど、協力隊という形で日本を広めていくのもかっこいいと思いました。

②青年海外協力隊としてブラジルに行ったと聞き、日本語を教えるために行ったと思っていたけど、文化を伝えるという目的も含まれていることを知り、いろんな目的での派遣があるのだなと分かりました。



イスラム教徒の生活の講話を聞いて…

①イスラム教について話を聞いていると、私が思っていたのと違うことが多くありました。ルールが厳しくなかったり、肌を隠すのは強制ではなかったりと他にも新しい発見がありました。

②イスラム教の方が肌を出さなかったり、断食をするのは強制されていることだと思っていたから、実際に話を聞くことで誤解や偏見がなくなりました。

ヤングムスリムの方々との交流を通して…

規則を堅苦しいとか厳しいと思っているヤングムスリムの方は非常に少なく、自分の今までの偏見や価値観が一気に変わった。こういうお互いを理解する場が、これからの時代必要だと思う。





国際教養科修学旅行 in Fukuoka & Nagasaki

12月5日(日)～7日(火)、2年生国際教養科の生徒が、修学旅行で福岡県&長崎県を訪れました。雲の少ない、温かい気候の中、充実した3日間を過ごすことができました。



1日目は、学問の神様を祀る「太宰府天満宮」、大人気水族館「マリンワールド海の中道」を訪れました。太宰府天満宮では、参拝、食べ歩きなど班ごとに有意義な時間を過ごしました。マリンワールド海の中道では、アシカ・イルカショーを見学後、一般の人が普段見られないバックヤードを特別に見せていただき、貴重な体験となりました。

館内の様々な仕掛けや、裏での仕事など、普段目にする事のない水族館の一面を見ることができました。@マリンワールド



ハウステンボスの取り組むSDGsについて学びました。水資源や発電など環境に配慮した工夫を知ることができました。@ハウステンボス

2日目は長崎県に移動し、ハウステンボスにて、ハウステンボスのSDGsの取組、その裏側を講演していただきました。その後の班別行動では、実際に施設をまわり、楽しみながら、講演で教えていただいたことを確認することができました。



3日目は、長崎平和祈念像、長崎原子爆弾落下中心地碑、長崎原爆資料館を訪れ、歴史に対する理解を深め、過去・現在・未来を改めて見つめ、考えるきっかけになりました。



原爆が投下された日、何が起きたのか、その時の長崎の様子、原爆の恐ろしさを学ぶことができました。@長崎原爆資料館

2日目の夕方&夜は、ハウステンボスのイルミネーションとホテルから眺める「100万ドルの夜景」の美しさに大興奮でした！



*本来はシンガポールの予定でしたが、コロナ禍のため、国内に変更になりました。

長崎平和祈念像前でクラス写真

フィリピンのストリートチルドレンと交流

10月23日(土)、国際教養科1年生が、貧困などの問題を抱えるフィリピンの子どもを支援するNPO法人を通じて、フィリピンの路上で暮らす子どもたちとオンラインで交流会を行いました。乗り合いタクシーの呼び込みなどで一日働いても収入はマニラの最低賃金に遠く及ばないことや、必要な費用や通学費などを工面できず、小学校で留年したり通えなくなったりする子がいることを知ることができ、学びの多い貴重な時間となりました。



生徒の声:

- ・『学校に行きたい』という子どもの思いが伝わってきました。
- ・現地に行って現状を学んでみたい。

フィリピンの現状をより身近に感じ、世界で起こる問題に対して考えるきっかけになりました！

